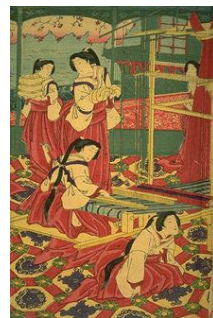

日本の手織機 便り

2004年12月

第4号



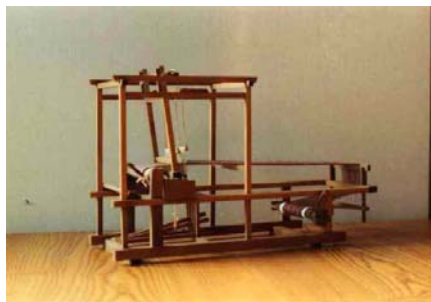
このたびの新潟中越地震で被害が大きかった地域は日本有数の織物産業が盛んなところではあります。この手織機ネットワークには小千谷織物同業協同組合・塩沢織物工業協同組合・新潟県工業技術総合研究所が含まれています。関係者の皆様はご無事でしたでしょうか。1日も早い復興をお祈りします。

手織機情報紹介

高機 新潟県十日町市 新潟県工業技術総合研究所蔵（現在は移動）

20年位前、十日町試験場と十日町織物工業共同組合との共同研究事業で設置されていた高機。その後同型の高機が十日町高等職業訓練校（のち十日町テクノスクール）に設置されたが平成15年3月で廃止になった。

この型の高機は、十日町産地、塩沢山地、小千谷産地周辺で現在も使用されている。



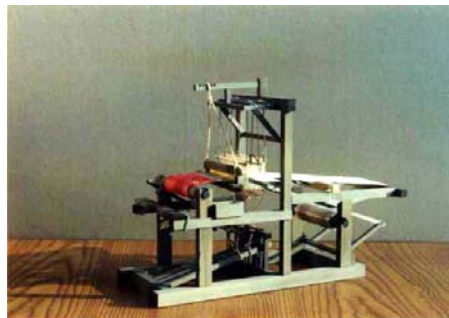
—新潟県工業技術総合研究所素材応用技術支援センター 小海 茂美氏より

シルク・サミット 2004 in 八王子

2004年10月21・22日に東京都八王子市でシルク・サミット 2004 in 八王子が開催されました。シルク・サミットは日本各地の養蚕・製糸・染織に関する伝統的文化と技術を伝承・発展させて新たなシルク文化を創造することを目的として長野県岡谷市の（独）農業生物資源研究所を中心に設立され、これまでに岡谷、桐生、網野、横浜で講演会・展示会・見学会等が開催されています。

東京都八王子市は古くから桑の都と呼ばれ、江戸時代以降織物の町として栄えたところです。八王子市郷土資料館には重松模型の原機が3台残っています。

高機 1



八王子地方は文政期（1818～1829）に桐生から高機を導入し、普及しました。この地方にはタイプの異なる数種の高機が残っています。この機は重松氏の調査当時（1982年）のままで展示してあります。実際には織っていません。

高機2



これは四本柱の上端に長方形の枠がある厩機（うまやばた）と呼ばれるタイプの高機です。展示されている機は重松氏が調査した機ではありませんが、同じ明治期のものです。一部の部品は新しくして実際に織っています。うしろに見える新しい機は体験講習に使われています。



左の写真は2階から高機2を写したもの。写真上部に写っている布は体験講習会で織ったもので吹き抜け部分に張り渡してあります。（紫色の布は高機にカバーとしてかけられているものです）

八王子市郷土資料館は養蚕や織物の展示や催しに力を入れており、学芸員の神かほりさんは夏休みの体験学習「繭から織物をつくろう」に取り組んだ経緯をシルック・サミットの講演会で発表されました。

地機



この地機は八王子地方のものではなく、資料館開館当時に収集された群馬県伊勢崎地方のものだそうです。

日本の手織機便り 第4号

発行 東京都小金井市中町2-24-16 東京農工大学工学部附属繊維博物館 田中鶴代

発行日 平成16年12月15日

カットは周延：開化高機之図（繊維博物館所蔵）